介護保険事業者番号　宮城県第０４５２６８００３６
医療法人社団喜英会 加瀬ウェルネスタウン

2016.07.18　髙橋美紀　作成
2016 年 7 月　特別増刊号

加瀬通信

発行者　〒９８１－０１１１ 宮城県宮城郡利府町加瀬字北窪１６番１
医療法人社団喜英会　　電話　０２２－３４９－１７１７

ご挨拶

平成１５年４月に開設した加瀬ウェルネスタウンは，今年で１３年目を迎えることができました。この間，介護保険制度は，めまぐるしく改正され，社会環境も激変する中，このように当法人が運営を継続できていますのも，利用者様及び家族様，地域の皆様，居宅介護支援事業所の皆様，多くの方々のご理解とご支援のおかげです。この場をおかりしまして，厚く御礼を申し上げます。
月１回発行している加瀬新聞ですが，このたび，特別増刊号を初めて発行することに致しました。デイケアでの取組と事例を主に，わかりやすく具体的にお伝えしたいと思っております。日常風景が伝わり，選んで頂ける“きっかけ”となれば嬉しい限りです。
これからも引き続きまして，末永くご支援くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

事例　一生車いす生活と言われていたが歩行できるようになったケース

利用開始時　要介護５
一生車いすと言われていた。

→ ７年６ヶ月後 →

現在　要介護３
１７０m歩けるようになった。

男性（７３歳　要介護３）
疾　　患：パーキンソン病　肺炎後の廃用症候群
利用開始時：平成２１年１月，６６歳，要介護５

利用開始時は、肺炎による長期臥床で足首に変形があり、車いすでの生活となっていた。
足首の変形があるため、立つ練習をしても踵が床につかず、つま先立ちの状態だった。
また、血圧も下がりやすく、立つ練習を行うとすぐに意識がぼんやりするほど、血圧が低下しやすい状態だった。
足の変形は高度でリハ職員の手によるストレッチでは改善が難しいため、立つ練習を行う中で自分の体重で少しずつ踵をつけるよう練習していった。血圧も下がりやすいためその都度血圧を測りながら可能な範囲で積極的に立つ練習を行った。
週に２回の個別リハビリを行う中で、血圧が下がりにくくなり、デイ開始２か月後より歩行練習を開始できるようになった。デイ開始４か月後より４０m歩行できるようになって、現在も血圧の不安定さはあるものの杖なしで１７０m休まず歩行できるようになっている。

事例　言語療法と仲間づくりでコミュニケーションが広がったケース

利用開始時　要支援１
言葉でにくく，理解難しい。

→ ４年３ヶ月後 →

現在も　要支援１
言葉スムーズ，会話量増えた。

男性（６５歳　要支援１）
疾　　患：脳出血，失語症
利用開始時：平成２４年４月，６２歳，要支援１

元々麻痺などの後遺症が少なく、身の回りのことはご自分でできていた。しかし、言葉の出にくさ・理解の難しさがあり、「緑（色）の椅子に座ってください」と職員が言っても、緑色が分からずどの椅子にすわってよいのかわからない状態だった。
個別リハビリ（言語療法）を週１回行っていたが、同時に他の利用者が行う将棋に興味を持つようになった。若い頃将棋をしていたため大まかなやり方はわかっていたが、他利用者に教えてもらいながら徐々に自分でもさすようになった。そのようにして将棋仲間ができ、日常での会話量が増えて、出にくかった言葉がスムーズに出るようになった。言いたい言葉が出てこずに会話中に詰まることも減り、話したことのない利用者やデイを利用し始めたばかりの利用者にも積極的に話しかけようと、気持ちも前向きになっている。

事例　個別リハビリではなくても歩行ができるようになったケース

利用開始時　要介護３
車いす生活，失語症。

→ ５年後 →

現在　要介護２
４０m以上歩き，会話増えた。

女性（８６歳　要介護２）
疾　　患：脳梗塞右片麻痺，軽度の失語症
利用開始時：平成２３年７月，８１歳，要介護３

利用開始時は車いす生活（自宅ではベッド上生活）で、服の着替えやベッドから車いすへの乗り移りなども自分で行えていた。しかし、失語症のため言葉の出にくさがあることと、「 歩けない 」ことで落ち込みが強かった。個別リハビリではなく、集団リハビリとして運動を週２回実施。両膝の痛みが強かったため、始めは膝に負担がかからない範囲での筋力強化を中心に行い、痛みをみながら徐々に歩行練習を導入。平行棒での歩行から徐々に杖歩行へ移行。現在は左右に杖を持って、４０m以上歩行できるようになっている。（しかし膝の痛み自体はあるため、シルバーカーを利用した方が長い距離を歩きやすく、今後杖ではなくてシルバーカーにしていくか検討を予定している。）自分で歩けるようになってきたことと、仲間ができたことで会話も増え、気持ちが前向きになった。病気になる前に趣味としていた編み物も「やってみよう」という気持ちになり、少しずつ思い出しながら作られるようになっている。

事例　疑似通貨ウェルを活用し意欲的に。

利用開始時　要介護２
自宅の自室にこもりきり。

→ ３年５ヶ月後 →

現在　要介護１
朝の会の司会や茶碗洗いを積極的に。

女性（８４歳　要介護１）
疾　　患：認知症
利用開始時：平成２５年２月，８１歳，要介護２

利用開始時，自宅では，認知症のためパジャマと普段着の区別がつかず，服の前後ろはわかるが，脱ぐときにどうしたらよいのかわからなくなり，動作が止まってしまっていた。昼夜の逆転もあり，夜中に起きて着替えたりしていた。自宅の自室にこもりきりで，寝たり起きたりを繰り返していた。デイケアを利用するようになってからは，職員の声かけで，朝の会の司会，茶碗洗い，タオルたたみなど疑似通貨ウェルを利用した生活リハビリに参加し，畑作りではジャガイモを植えたり，草むしりをしたり，外出行事にも参加し，他の利用者様とのコミュニケーションも良好で積極的になった。

事例　あらたな趣味をみつけ積極的に。

利用開始時　要介護１
活動消極的，一人で過ごす。

→ ４年後 →

現在　要支援２
一眼レフカメラで撮影を行いリハビリ積極的に。

男性（６７歳　要支援２）
疾　　患：十二指腸潰瘍眼術後脳梗塞併発，嚥下障害（トロミ食）
利用開始時：平成２４年７月，６３歳，要介護１

元の仕事はトラックの運転手であった。利用開始時は持参した雑誌を読まれたり，リハビリ後は「疲れた」と言ってベッドで休まれることが多かった。そのうち，デイケアでの活動を職員がカメラで撮影している様子をじっと見ている事が続き，ある日，カメラを見せて欲しいとの申し出から，職員とカメラの話に。ついに，ご自身でカメラを購入した。今ではプロ仕様の重い一眼レフカメラを持参し，風景はじめ，利用者や職員，外出行事を撮影。カメラのプロ本も持参し勉強している。その写真は何気ない表情を捉え，レベルも高く，館内で個展を行うまでとなっている。プレゼントされた利用者も喜び，日々撮影の為にとリハビリに力を入れている。

事例　脳梗塞の予兆に気づき早期対応に。

男性（７９歳　要介護２）
疾　　患：リウマチ性多発筋痛症・糖尿病・高血圧・骨粗鬆症・萎縮性胃炎・脳梗塞
利用開始時：平成２７年９月

利用者の Mさん。温厚で言葉数も少なく、物静かに一日を過ごす性格のMさんは、今年の３月中旬も，いつものように午前中に入浴を終え、昼食までの時間は自宅から持参した難問読解問題を解きながら過ごしていたが，食事後の１３時３０分頃、介護職員が見守りながらトイレに向かう途中、足の運びがいつもと違う様子がうかがわれた。それでも自力で歩行し，席まで戻られた。その様子を見ていた看護職員とリハビリ職員は、足の引きずりや突進歩行等の「いつもと違う様子」から、早期に病院を受診する必要を判断し，ご家族に勧めたところ，その後すぐに受診に繋がった。担当医からは脳梗塞と診断され，約１ヵ月の入院を送り、今でも元気に通われている。退院後の過ごし方も大きく変わりは無い。これからも，深い経験を積んだプロの目を活かし，ご家族と連携しながら，ご利用者様へサービスを提供したい。

加瀬ウェルネスタウン　デイケアの日常風景

◎Ａルームは明るく広々。主に活動的な生活リハビリを行う。利用者の状況応じてＢルームと使い分ける。

◎Ａルームに設置している人気のウォーターベッド。いつも予約で一杯。

◎Ａルームの利用者専用パソコンコーナー。プリンターもあり，作品づくりに活用。

◎Ａルームにあるスリング室。座ったまま安定を保ちながら，多様な運動を行う。

◎Ｂルームには和室があり，落ち着いた雰囲気。なしの美保育園に隣接し，園庭の子供達が見える。

◎お風呂のニーズが高いことに対応し，車いすの方でも利用できるチェアーインバスを２台設置。

◎負荷が低い専用のトレーニングマシーンを利用したり，多様な活動を行うリハビリホール。

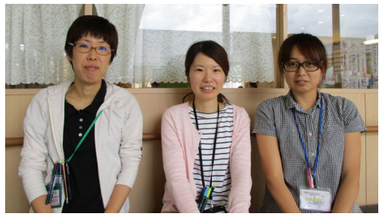
◎楽しく意欲的な生活リハビリを行う為に取り入れた疑似通貨ウェル。通帳を覗くと貯金が一杯。

◎生活リハビリのメニューには，ルーレットもあり，疑似通貨ウェルを賭ける。

◎生活リハビリのメニューにある麻雀。いつも白熱した勝負が行われている。

相談員のご紹介

水間由紀子（写真左），佐藤梓（写真中），東谷郁美（写真右）の３名が，対応します。お気軽にご相談ください。



見学随時受付しております。
◎通所リハビリ直通番号　０２２－２９０－７１２８